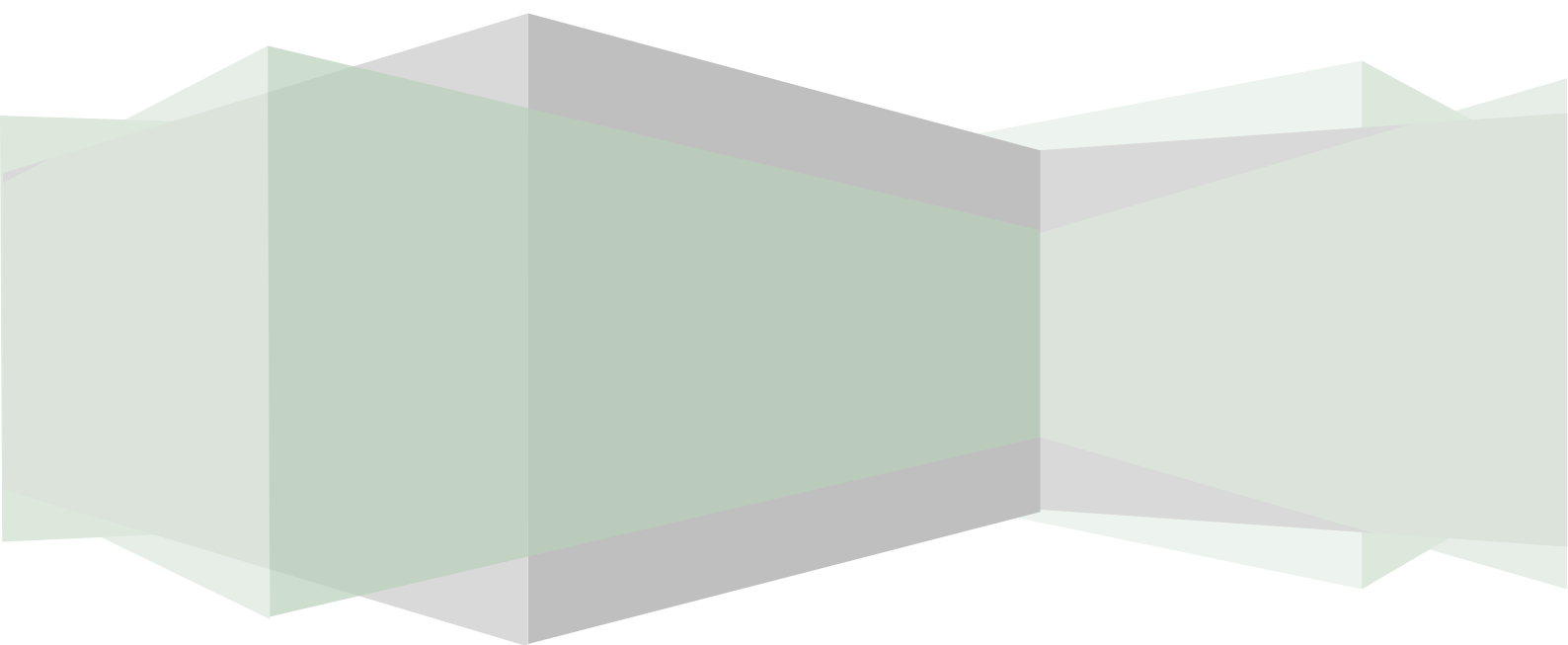


大分市 市民部 市民協働推進課

協働のまちづくり大賞 事例集

令和2年度



目 次

- 協働のまちづくり大賞について・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1

令和2年度 受賞事例

【協働のまちづくり大賞】

- 《川添校区自治会連合会》
「校区行事を通じて豊かな地域づくり・人づくり」・・・・・・・・・・P 2

【審査員特別賞】

- 《明野南町自治会》
地域コミュニティによる自治公民館建設～更なる活性化へと繋ぐ・・・・・・・・P 5

【優秀賞】

- 《南下郡町内会》
「安心・安全で住みよい街づくり」実現に向けての防災活動・・・・・・・・・・P 8

【奨励賞】

- 《口戸自治会（ななせ農地保全会）》
地域住民の世代間交流による農業体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 4
- 《緑が丘ふれあい食堂》
「緑が丘ふれあい食堂」を通じた多世代の交流等の場づくり・・・・・・・・・・P 1 1
- 《上り尾自治会》
上り尾農産物直売所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 1 7
- 《池ノ平自治会》
自治会活動活性化の糸口「環境美化活動」の取組について・・・・・・・・・・P 2 0

協働のまちづくり大賞について

協働のまちづくり大賞は、自治会やその活動を支援する市民活動団体等が行っている住みよいまちづくりのための活動事例を募集・表彰する制度です。

令和2年度は、7団体から応募していただきました。

応募のあった全ての事例をまとめた本事例集を、自治会に配布するとともに、大分市のホームページに掲載します。まちづくりの参考にしていただくとだけでなく、今まで自治会がどのような活動をしているか知らなかった人にも目を通していただき、関心をもつきっかけになればと思っております。

～テーマ別一覧～

【世代間交流】

- ◆緑が丘ふれあい食堂.....(植田地区 横瀬校区).....P 1 1
- ◆口戸自治会（ななせ農地保全会）.....(植田地区 植田校区).....P 1 4

【コミュニティの活性化】

- ◆川添校区自治会連合会.....(鶴崎地区 川添校区).....P 2
- ◆明野南町自治会.....(明野地区 明野校区).....P 5
- ◆上り尾自治会.....(大南地区 戸次校区).....P 1 7

【安全安心のまちづくり】

- ◆南下郡町内会.....(大分南部地区 下郡校区).....P 8

【日本一きれいなまちづくり】

- ◆池ノ平自治会.....(明野地区 明野校区).....P 2 0

※掲載内容は、応募団体からの「協働のまちづくり大賞」応募資料より抜粋しています。

協働のまちづくり大賞

テーマ：コミュニティの活性化

校区行事を通じて 豊かな地域づくり・人づくり

(鶴崎地区 川添校区)

川添校区自治会連合会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

川添校区は大分市東部に位置し、清流大野川に沿って南北約 8km に伸びる細長い地域で、校区の中央より臼杵に向けて東南に伸びる道路は九六位山系の山々を越えていく歴史と文化の薫る街。3つの住宅団地を含む 15 自治会 2,000 世帯、6,000 人が住む農業の盛んな地域。平成 4 年度には小学生が 830 人であったのに対し、現在は 160 人と少子高齢化・過疎化が急激に進行しつつある。当校区は南北に、また東南に T 字形に細長く伸びる地域のため、移動手段として車が必需品であり、人通りも少なく歩行者へ目が届きにくい環境にある。

そのため、①住民の融和を図ること ②高齢者の外出時や特に子どもたちの通学や遊び場での安全を守る安全安心のまちづくり ③地域の誇りである九六位山や大野川等を大切にする郷土愛を育む等を目的として地域をあげて行われる各種行事のマンネリ化と参加者の減少を食い止めること ④若い世代の人づくりが課題である。

取り組み内容

校区ふれあい祭りや体育祭といった校区の行事、椎茸のコマ打ちやサツマイモの苗植え体験及びそれぞれの収穫体験並びにたこ作り・大野川でのたこあげ等の学校支援事業、高齢者を励ます会等への協力や各種事業を行うだけでなく、川添校区独自の取り組みとして「初日の出遙拝会」「子どもたちを対象とした野外体験活動・キャンプの夕べ」「ハゼ釣り大会」「防犯活動」等を実施。

①初日の出遙拝会（毎年 1 月 1 日に九六位山山頂で開催）

毎年 12 月に自治会長や住民有志で展望台廻りや登山道等の草刈を行い、甘酒用の竹コップを作り、新年を迎える準備を行う。当日は甘酒を参加者にふるまい、記念品を配布。和太鼓の演奏など聴きながら、住民同士新年の挨拶をして日の出を待つ。例年川添だけでなく他地区からの参加者も多く見受けられる。初日の出を遙拝し九六位山円通寺で校区の安全を祈願。令和 2 年 1 月 1 日で 40 回を迎えた。毎年麓から歩いて登る人もおり、多い年は 200 名を超える参加がある。

②子どもたちを対象とした野外体験活動・キャンプの夕べ

(毎年7月の第3土曜日に九六位山キャンプ場で開催)

住民有志や大学生ボランティアの協力をいただきながら、事前の草刈りや早朝からの会場設営、子どもたちと一緒に飯盒炊爨やカレー作り等、普段なかなか出来ない野外体験を子どもたちの夏休みの思い出になればという想いから継続して実施。野外体験活動終了後、キャンプの夕べを行う。各自治会主催の焼肉大会、綱引き大会、ゲーム大会、子供神楽や吹奏楽団の演奏等毎年色々な催し物を開催。また、2年に一度万燈籠(10mを超える竹を組んだ塔を燃やす伝統行事)も消防団の協力を頂きながら実施。高齢化に伴い塔の製作等次の世代に繋いでいくことが重要な課題である。早朝から夜遅くまでかかり、翌日の片付まで自治会長が一年で一番大変な行事であるが、地域住民のコミュニケーションの場として継続していきたい。

③ハゼ釣り大会(毎年10月に大野川で開催)

住民有志の協力も得ながら会場周辺河川敷の草刈を行い、参加者の安全を確保。当日は消防団、川添小学校の先生方やPTA、漁協その他の協力を得て開催。校区の大勢の親子連れだけでなく他地域からも参加されるようになった。また、郷土愛を高め、次世代に繋げていけるよう河川愛護の標語コンクールも実施。川添小学校では授業の一環として全校児童が出品、地域住民には自治会で標語募集の案内を全戸配布して募集。優秀作品は大会で披露し、子供の部・大人の部それぞれ校区ふれあい祭りで国土交通省大野川出張所長から表彰状が手渡される。

④防犯活動

校区の高齢者の外出時や特に子供たちの通学や遊び場での安全を守るため、平成15年7月に自治会長を中心に24名で防犯パトロール隊を結成。現在4台の青パト車を導入して防犯活動を行っている。

特に工夫している点等

行事を行うにあたり高齢化や若い年代層の参加者減が課題となるが、自治会を通じての全戸配布や子どもたちを通じての親や祖父母世代へのアピール、参加案内を行って参加者の掘り起しを行った。また、ハゼ釣り大会では関心を持ってもらえるようハゼの調理法等をチラシで紹介した。

校区行事を通じて若い人と自治会長と一緒に汗をかくことで自治会活動への理解が得られ、世代間のコミュニケーションかとれるようになり、「地域の子どもたちは地域で育てよう」の理念への理解が進むとともに、子どもたちの故郷を大切に思う気持ち「郷土愛」の育成に寄与している。

高齢者が子供達とふれあい、楽しく安心して住める、安全安心のまちづくりに努める活動を積極的に進めている。

活動の成果・今後の展望

地域住民が学校に行き、学校支援事業などを通して子どもたちのために活動することで子どもたちと顔見知りになり、子どもたちが積極的に地域行事に参加するようになった。地域ボランティア・子どもたちともに人の役に立つことで、生きがいに繋がっている。小学校を卒業した子どもたちも、行事の手伝いとしてボランティア活動をしてくれるようになった。中学、高校になり他地区からの生徒と一緒に参加してくれたりして川添校区の住民だけでなく他地区からの参加も増えてきた。ボランティア同士の仲間づくりにも繋がっている。

また、近年九六位山キャンプ場で自治会長有志による大分市後援のサマーフェスタやオータムフェスタを行い、広く県内他市町村からの参加者があった。

今後も川添校区だけでなく、広く大分市民にとっても貴重な自然を大切に守ってきたい。

活動の様子

学校支援活動



学校支援(椎茸コマ打ち体験)



学校支援(サツマイモの苗植え)

初日の出 遥拝会



初日の出遥拝会



竹コップ作り

野外体験活動・ キャンプの タベ



野外体験(飯ごう炊さん)



野外体験(火おこし体験)



キャンプのタベ



万燈籠

ハゼ釣り大会



ハゼ釣り大会



防犯活動



審査員特別賞

テーマ：コミュニティの活性化

地域コミュニティによる自治公民館建設 ～更なる活性化へと繋ぐ

(明野地区 明野校区)

明野南町自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

明野南町自治会は、新日鉄等進出企業群の社宅や社員住宅建設に合わせ、設立された自治会である。立ち上げ当初は社宅の一室を活動拠点としていたが、外部からの新規入居者等が増えたことにより、コミュニティの機会充実に迫られた。

まずは、活動拠点の確保が必要となったことから、自治公民館の建設を行った。

取り組み内容

『建設資金＋維持管理費確保に向けて』

1. 当時の自治会の状況

- ①新日鉄関係の住民に加え、多方面から集まり振興住宅地となったことから地域への関心度に差が生じていた。
- ②住宅も戸建てだけでなくマンションや社宅等、住環境は多様性に富んでいた。

2. 具体的な取り組み

①LED化

- ・無駄の排除策として、防犯灯 216 灯(水銀灯) を LED へ
⇒節電・長寿命化
- ・地球に優しい環境づくりに向けた学習と活動
現状と LED 化後のメリットや維持費や環境づくり等を説明

②廃品回収

- ・通常の廃品回収に加え、毎月第2第4日曜日にも収集を実施
- ・収集活動の成果を数字で見える化
- ・市のステーションは、曜日や時間が限定されているため、いつでも有価物を出せるようにしてほしいという住民要望に応えるため、公民館敷地内に「ご近所の底力再生事業」を活用し、常設置き場を設置。
⇒住民は時間や曜日を問わず好きな時に出すことができるようになった。

特に工夫している点等

1. もともと地球に優しい環境づくりで始めた LED 化作戦は、住民パワーを全開させ公民館建設や環境づくりへとつながった。
2. 廃品回収の収益金は年間数十万にも上り、塵も積もれば山となり、住民に感謝している。
3. それぞれの活動収益で、公民館建設の一部を補填、さらには維持費も捻出。地域は、一層のコミュニティ活性化を継続。
公民館は、地域で出たごみで建て、地域で出たごみで維持されている。

活動の成果・今後の展望

- ・資金は市補助金・従来からの備蓄に加え、住民の活動成果で建設できた。現在も収益金で公民館維持費を賄っている。
- ・ふれあいの場として公民館はしっかりと住民に活用され、住民間のコミュニティは活性化を継続中（各種会議や研修・子どもふれあい会等）子ども、お父さんお母さん、青年層、高齢者までにぎわいがあり、自治会内が活気に満ち溢れている。
- ・現在も明野南町はマンションや戸建て住宅が建設中で、人口が増加している。自治会加入を促進し、現在の活動を継続し、更なるコミュニティの活性化を図っていきたい。

活動の様子

地域コミュニティによる 自治公民館建設～ 更なる活性化と繋ぐ 平成22年～

公民館建設に向けての課題

1. 市補助金、従来補善、新規捻出（住民寄附＆自助努力）が財源しかし寄附は他力本願で不透明
2. つまり、自助努力が成否の鍵ならば、住民に負担を強いらず協力を得る作戦が不可欠

イメージ的には

1. 自治会活動の質を落とさず、無駄排除、そんな事が出来る？あった！
2. 防犯灯（216基）にエネルギー大量消費水銀灯⇒省エネ代名詞LED
3. 更新費用5～600万捻出が必要
4. 期待効果は「無駄排除＆地球環境」

基本コンセプト

前提条件

寄附は自主性頼り、借りることなく、自治会費据え置き

相乗効果期待

自治会財源向上＆地球環境への貢献

取り組み背景

1. 南町自治会は、半世紀前の団地創設時、会社（新日鐵）主導で立ち上げ、以降会社傘下の元、**集会場機能も社宅一室を間借り状態であった**
2. その社宅老朽更新が迫り、立ち退き要請に合わせ自治公民館建設の機運が高まっていた。

住民理解を得る作戦とは

1. 日常生活範囲内で負荷・費用面の負担なし
2. 取り組み成果の可視化で納得させる
3. 南町特有のスケールメリット活用（約900世帯、2200～2300人）

具体策

1. 自治会独自で有価ゴミ収集作戦（新聞、段タンボール、アルミ缶等）
2. 収集要領、ガイドラインの周知徹底市ステーションや公園・広場借用
3. 協力を得やすい、毎月第2、4日に天候に関わらず実施と限定



優秀賞

テーマ：安全安心のまちづくり

「安心・安全で住みよい街づくり」 実現に向けての防災活動

(大分南部地区 下郡校区)

南下郡町内会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

南下郡地区は世帯数約 2,300 戸、人口約 6,300 人の比較的大きな町内会である。東側に明野団地、西側は大分川に囲まれ、地震・津波以外に土砂災害・河川氾濫等の自然災害発生が極めて懸念される。

自然災害に遭遇した際、被害を最小限にするには「自助力・共助力がカギを握っている」と認識するとともに地理的にも様々な自然災害が懸念されるため、早急に「自助力」「共助力」を更にアップする必要がある。

南下郡に防災士が誕生した平成 20 年度から町内防災活動を開始。

その後、町内会防災活動の充実・強化を図る観点から、見直し・改善を推進して現在の活動に至っている。

取り組み内容

南下郡自主防災会を組織化して下記の防災活動を推進した。

但し、令和2年度は、コロナ禍のため※印の活動ができなかった。

No	実施月	項目	概要
1	3～4月	年次防災計画の作成・周知徹底	町内組長会議にて周知徹底
2	6月	防災講演会【外部講師】 ※	町内役員、組長を対象
3	7月	災害図上訓練 ※	防災組織副班長以上40名
4	8～10月	避難行動要支援者対策行動	防災組織幹事中心、個別訪問
5	11月	町内防災訓練 ※	下郡小学校に約300名集合
6	通年	防災倉庫点検、資機材強化（3ヶ所）	防災士、点検1回/2月
7	3回/月	防犯パトロール【3班体制】	各班約10名、3ルート巡回

《※印 代替の活動》

No	実施月	項目	概要
1	7月	給食・給水班 災害図上訓練	少人数開催、課題提示方式
2	10月	情報・警戒班 災害図上訓練	少人数開催、課題提示方式
3	11月	ふれあいサロン ミニ防災講話	講師：町内防災士

特に工夫している点等

1. 毎年、年次防災計画を策定・周知徹底
 - ・内容：防災組織、活動スケジュール、災害発生時の対応方法等々
 - ・防災士にて原案を作成。自主防災会役員、防災幹事会で審議・確定を行い、取り組み内容等を関係者が共有する。町内全体への活動のカギは各組長が握るため、年次第一回組長会議にて防災計画を周知徹底する。
2. 町内会活動と防災会活動の融合並びに防災士の積極活用
 - ・防災活動が容易にできるよう町内会役員が自主防災会役員を兼務とした。
 - ・町内会での防災士の認知度アップのため、町内組長会議の際は必ず防災士が防災活動に関して説明する機会を設けた。
3. 災害図上訓練を積極展開
 - ・防災スキルアップには、災害図上訓練がかなり効果的であることから、同訓練を積極的に取り入れた。今年は、多人数参加の訓練ができなかったため、自主防災組織の「給食・給水班」「情報・警戒班」の2班で実施した。
 - ・図上訓練の実施要領は防災士手作りとした。

活動の成果・今後の展望

1. 町内防災訓練には、約 300 名の参加があり町民の防災意識の高さを感じる。
2. 防犯パトロールは 16 時～17 時をメインとして、学校からの帰宅ルート of 安全確保に貢献できたと評価している。
3. 防災活動にはゴールが無いので、引き続き効果的な活動を推進する。
訓練関係では本格的な避難所運営訓練を実施するとともに、老人福祉施設との情報交換を進め避難行動要支援者の避難訓練等を推進したい。
4. 令和 2 年 7 月の大雨時、東区斜面において法面補強モルタルの脱落が発生した。
いつ発生するか分からない自然災害。町民に防災訓練等の防災活動に関わって頂くことが「自助力」「共助力」のアップに繋がると確信している。今後も常に先取りの防災活動・減災活動となるよう積極的に展開したい。

活動の様子

*令和2年度はコロナ禍のため未実施

町内防災訓練



下郡小体育館へ
避難・集合



地震体験、県防災アプリ説明



救急・救命訓練



避難所運営訓練



炊き出し訓練

防災講演会



災害図上訓練



防災倉庫



給食・給水班 災害図上訓練



情報・警戒班 災害図上訓練



ふれあいサロン 南下郡 防災講話



奨励賞

テーマ：世代間交流

「緑が丘ふれあい食堂」を通じた 多世代の交流等の場づくり

(植田地区 横瀬校区)

緑が丘ふれあい食堂

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

緑が丘団地は、緑あふれる素晴らしい住環境にあって、約 3,600 人が暮らしており、自治会で、諸行事（球技大会、団地まつり、体育祭、文化祭、敬老の集い、ウォーキング大会など）を実施し、団地住民相互の親睦とふれあいを図っている。

しかし、団地が出来て 41 年が経過し、少子高齢化や人口減少が進む中、今後は子どもからお年寄りまで多世代にわたる住民のさらなる親睦とふれあいづくり、安全安心に住み続けられる団地づくりが求められている。

保護者の仕事の都合で、やむなく 1 人または兄弟姉妹だけで昼食をしている子どもたちや一人暮らしの高齢者の方々など多世代にわたる人たちとの交流や励まし、見守りの場所を作るため活動をはじめた。

取り組み内容

平成 29 年 2 月に運営メンバー（14 名）で協議を行い、活動の名称を「緑が丘ふれあい食堂」、対象者や日時等は下記内容とし、料理メニューは必ず火を通したもので『カレー』に決定した。

開設にあたり、自治会に説明するとともに地域の子どもの保護者あてにメールで情報発信を行った。

「緑が丘ふれあい食堂」

- ・対象者：活動に賛同した運営メンバー（14 人）、子どもたち
- ・日時：毎月第 3 土曜日の午前 10 時から（月 1 回開催）
- ・場所：緑が丘中央公民館
- ・参加費：100 円

※カレーのおかわりは、何杯でも OK。

※会場（緑が丘中央公民館）への往復は、参加者の自己責任としている。

※カレーは検食のため、1 週間冷凍庫に保管しており、保健所に書類を提出。

- ・開設から半年後、対象者を子どもだけでなく、高齢者を優先に地域の人々にも開放することを運営メンバーの検討会で決定し、現在では多世代にわたる交流と親睦を図る場となっている。
- ・開設から令和2年3月、新型コロナウイルス感染拡大防止により中断するまでの3年間の参加者は、延べ約1,800人（月平均50人、うち子どもは3分の2）である。

特に工夫している点等

【特に工夫している点】

- ・同じ味に飽きないように、カレーは毎回、味を変えて提供している。
- ・食物アレルギーを持つ子どもに対しては、当日提供するカレーの具材を事前に問い合わせてもらい、その具材を使わない配慮をしている。

【アピールしたい点】

- ・「緑が丘ふれあい食堂」は、開設に賛同した14人が自主運営で行っている。
- ・開設当初は経費が不足しており、その不足分は、運営メンバーが補填していた。現在、食材については、団地内のスーパーから肉（定期的）、野菜（不定期）の提供があり、鬼崎や団地の方からも不定期ではあるが、季節野菜や米などを提供いただいている。
- ・調理にあたっては、メンバー全員がキャップやマスクを身に着け、調理前に必ず手洗いをし、まな板や食器等の除菌作業を行うなど衛生管理に万全を期している。

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

- ・地域の多くの子どもたちと大人がふれあう場となった。
- ・子どもたちが小学校高学年や中学生になっても、「緑が丘ふれあい食堂」に足を運んでくれて、繋がりが無かった地域の人たちともたくさんふれあい、会話も弾むようになった。
- ・地域の人々の事が分かるようになり、元気な姿などの様子を確認できるようになった。

【今後の展望】

「緑が丘ふれあい食堂」が今後も継続していくよう若い世代の人たちにも声かけを行っていくとともに、住民相互のふれあいを通じて、共に助け合い、安全・安心な「明るく住みよい街 緑が丘」づくりに寄与したい。

活動の様子

カレーづくり



参加者の 受付の様子



提供するカレー



ふれあい食堂 運営メンバー



奨励賞

テーマ：世代間交流

地域住民の世代間交流による農業体験

(植田地区 植田校区)

口戸自治会（ななせ農地保全会）

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

口戸自治会は、戸数が 63 戸、人口が 168 名、うち 70 歳以上の高齢者は 68 名で 70 歳以上の割合は 40.5%となっている。また、子ども会に加入している子どもは 9 名である。

自治会活動等において、地域住民の高齢化が進み、地域として「まとまり」が弱まってきたこと、さらに少子化の影響で子どもたちとの関わりがなくなったことから、高齢者と子どもの出会いの場を作り、「地域コミュニティ」としての役割を持った自治会にしたいとの思いから活動をはじめた。

取り組み内容

特に子どもたちに作物（稲作等）を自分の手で作り、収穫する喜びを味わってもらいたいとの思いから、自治会内で開催案内を回覧し、参加を呼びかけ、地域住民で農業体験（田植え・稲刈・芋ほり会・餅つき会）を行っている。

①田植え

毎年 6 月中旬に実施しており、令和元年は 6 月 16 日に実施。大人 50 名、子ども会から 25 名が参加し、参加者全員で手植え体験を行った。

②稲刈

令和元年はウンカ被害のため、子ども会を除いた自治会で実施した。

平成 30 年度は、大人 15 名、子ども 7 名が参加し、380kg の稲を収穫した。

③芋ほり会

令和 2 年 10 月 18 日に実施。口戸自治会と口戸・平野子ども会から大人 12 名、子ども 9 名が参加し、集まった子どもたちは口戸公民館前の畑に植えたサツマイモを楽しく掘っていた。

④餅つき会

令和元年 12 月 15 日に実施し、大人 60 名、子ども 14 名が参加。餅つきや、ついた餅を丸めるなど参加者全員で行った。

特に工夫している点等

- ・各種事業(取り組み)について、年度当初の総会で実施時期等の承認を得て、自治会の取り組みとしている。
- ・実施時期が来ると事前に準備委員会(自治会役員等)を開催し、実施方法等決定するとともに参加を促している。
- ・開催案内文書にイラスト等を挿入し、住民の皆さんに参加を呼びかけている。
- ・子どもたちが参加することで、若い父兄の参加も得られている。

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

農業体験を通じて、高齢者と子どもだけでなく、若い父兄と高齢者といった様々な世代間での交流が行われ、ふれあいが多くなった結果、地域コミュニティの活性化に繋がった。

【今後の展望】

指導者が高齢化し、子どもが年々減少している等の理由から事業継続が難しくなることを憂慮している。今後も継続していくために指導者やリーダーシップのとれる人材を育成するとともに、大人のみで実施していた植栽活動などに子ども会を参加させる等して、世代間交流の機会をさらに増やしていきたいと考えている。
今年度は、「コロナ禍」の影響で、子どもたちとふれあう各種行事が中止となったため、早く収束し、普段の生活が出来るよう祈っている。

活動の様子

田植え



稲刈



芋ほり会



餅つき



植栽



奨励賞

テーマ：コミュニティの活性化

上り尾農産物直売所

(大南地区 戸次校区)

上り尾自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

上り尾自治会の令和2年10月末現在の戸数は36戸、人口は114人となっている。自治会は南北に長く、国道により山側と川側に分断されている。高齢者の一人暮らしや、介護サービスを受ける住民が多い。高齢化に伴って集落の共同作業やお祭りの実施について、従来の方法を見直さなければ維持できないようになりつつあり、限界集落（65歳以上が集落人口の半数を超える）の様相を呈している。また、耕作放棄地が少しずつ増加して、隣接する田畑への害虫の侵入や日照の影響が出ている。

このような中、日常の雑談で、疎遠になりつつある住民、老若男女が寄って、顔を合わせて話ができて、楽しく過ごせる場を作ろうということになり、「農産物直売所」を設けることにした。

取り組み内容

直売所の運営にあたり5つの理念を掲げ愛称を「話寄会愛（わきあいあい）」とした。

【運営理念（事業計画などの根本的な考え方）】

1. 上り尾住民が集う場所とする。
 2. 上り尾住民全員（個人やグループ）が生産者であり、運営者である。
 3. 営利を主な目的としない。
 4. 上り尾住民の自助、周辺住民、自治会等との共助の拠点とする。
 5. 景観や生活環境の向上を図る。
- ・新型コロナウイルスの影響で総会が開催できないので、8人で世話人会を組織し、直売所の設置場所や必要な物品、出荷方法等について話し合いを重ねた。また、保健所食品衛生担当班に、直売所で扱える物について指導を受けた。
 - ・耕作放棄地（約30a）を借用し、直売所で販売する目的で、スイカやカボチャ、トウガン、トウモロコシ、サツマイモ等の栽培に取り組んだ。
- また、直売所に出荷したり、加工品の材料となる作物を栽培することを条件に、畑の個人利用もできるようにした。弁当や惣菜、菓子類には、できるだけ上り尾で生産さ

れた農産物を使用するようにし、野菜や穀類の栽培を促すように取り組んでいる。

- ・みんなで楽しむために、希望者（10人）でジャンボカボチャの栽培に取り組み、食事をしながら品評会を実施した。失敗したり腐敗したりしたが、41 kgを筆頭に14個が出品された。その後、大南支所と大南公民館のご厚意で、ハロウィンが終了するまでロビーに展示していただいた。来年も取り組むことにしている。
- ・景観の向上や、集いの場所にするために、住民の散歩道の脇にあり、国道からも見える場所にある耕作放棄地を借り、ヒマワリやコスモス、マリーゴールド、ジャンボカボチャ等の栽培に取り組んだ。散歩の途中に水やりをしたり、草取りをしてくれたり、自分で育てた花の苗を植える住民もいて、成長の様子や景観を楽しむことができた。水田では景観の向上とコメの生産性・食味の向上を図るためにレンゲを植える住民が増えている。直売所では、「レンゲ米」として販売した。
- ・農園で収穫したサツマイモやカボチャを原料とした菓子類の工夫や、粃殻から良質な燐炭を作る取り組みをしている。
- ・大野川で獲れるモズク蟹や鮎、稲や野菜に甚大な被害を与えるイノシシ・鹿等の加工品を、直売所で販売するために、保健所に相談しながら準備をしている。

特に工夫している点等

自治会総会を開催して、農産物直売所のコンセプトや具体的な運営について協議し、自治会の総意として出発したかったが、新型コロナウイルスの影響で、それが叶わなかった。

そこで、別紙資料を全戸配布や個別に説明しながら、趣旨を徹底するようにした。出荷をする人、出荷はできないが直売所の設営に協力する人、直売所に買い物に来てくれる人、場所を提供してくれる人等は、合わせると90%以上が関わっている。

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

住民間の会話の機会が増え、各戸の家族構成や、一人暮らしの住民の健康状況、親の介護の深刻さ等について知ったりすることにより、手を差し伸べる場面がみられるようになるなど、住民間の距離が近くなったことを感じる。

【今後の展望】

- ・一人暮らしや介護等で困窮している人に対する、ソーシャルサポートについて自治会として取り組むことにした。
（例：先ず知ること、一時避難場所への避難誘導、自然災害を受けた場合の復旧、市報は安否確認を兼ねて個別配布）
- ・田畑の作付面積が広くなり、直売所に出荷して楽しみたいという雰囲気が広がった。耕作放棄地の減少につながることを期待している。

活動の様子

直売所



収穫した
農作物



ジャンボカボチャ



スイカ

上り尾地区
田畑



奨励賞

テーマ：日本一きれいなまちづくり

自治会活動活性化の糸口 「環境美化活動」の取組について

(明野地区 明野校区)

池ノ平自治会

地域の課題、活動をはじめたきっかけ

池ノ平自治会内を南北に走っている県道松岡日岡線。大分市が整備し、その後、県道となり、昼夜を問わず多くの車両が通行している。道路両側には店舗が連なり、にぎわいがあると同時に、歩道がカラー歩道として整備されていることから大変明るい雰囲気の通りでもあり、散歩する住民も多く見受けられる。

しかしながら、植樹されていたハナミズキも成長し、交通の妨げになったことから一部だが、姿を消してしまった。また整備された花壇も手を入れられることなく雑草が生い茂り、景観が損なわれていた状況に地域住民は、大変落胆していた。

取り組み内容

- ①今回の環境美化活動に対し、所管の大分土木事務所に協力を依頼。
- ②大分市地域まちづくり活性化事業「花と緑によるまちづくり」事業の一環として実施できるようにした。
- ③地域住民への周知を回覧にて複数回実施。
- ④6月以降、事前の取組として、歩道上や道路縁石付近の除草や花壇の除草、石ころや木の根の撤去作業を実施。
- ⑤10月24日（日）地域内の老人会やサークル活動団体の方々の協力を得て、歩道上の花壇20個所の花床の整備を実施。
- ⑥11月8日（日）環境美化活動当日を迎えた。参加者106名（小学生25名・中学生1名・一般80名）チューリップ他を植栽。
- ⑦翌日から、歩道上花壇に面した店舗や住宅を訪問し、水やりへの協力要請をしたところ、快諾してくれた。

特に工夫している点等

- ①地道に行った事前の作業中には、住民からの「ご苦労様。」「花壇には水やりします。」「できることがあったら言ってください。」等多くの声掛けがあった。
- ②花壇整備に率先して参加してくれた活動団体があった。
- ③活動当日の駐車場利用について店舗からの協力や植栽作業に従業員が参加の意向を示した店舗もあった。
- ④活動実施に当たり、自治会役員に対し丁寧に繰り返しの説明を行った。
また、一部の人のみの参加でなく多くの地域住民の協力は重要であり必須であるため、回覧チラシを複数回にわたり発行し自治会活動の見える化を図った。チラシの作成にあたっては、イラストや写真、ポイントを大きく、読んでもらえる紙面とした。
- ⑤県道だから県が、市道だから市が、と行政に頼るということではなく、「自分たちの住んでいる地域だから自分たちでできることは自分たちで取り組もう」という気持ちで、多くの住民の参加につながった

活動の成果・今後の展望

【活動の成果】

- ・景観が良くなり、住民から高い評価を受けている。
- ・この活動の主人公は子どもたち。住民から多くの支援を得られ目的を達成。
- ・子どもたちと大人たちの交流が深まる場となった。
- ・活動を通じ、地域力（地域内の活動団体の組織力が高いことも含め）が高まることが分かった。
- ・店舗の方々の協力を通し、地域内の連帯の輪が築かれてきている。

【活動の課題】

- ・この活動を継続していくことが重要。6月11月をメインの活動月とし年2回植栽活動を実施していく。
- ・景観を維持することも重要。定期的な花壇整備を実施するため、自治会内に環境美化部の新設に向け検討。
- ・池ノ平自治会は、1,000世帯を超す大所帯。ミニ開発が進み、これからも人口が増える状況の中、自治会加入促進を含め、自治会活動には欠かせない地域内の子ども会や老人会他の活動団体との一層の連携も求められる。

【活動の展望】

- ・「花薫り、景観すがすがしいまちづくりを目指す池ノ平自治会」をキャッチフレーズに環境美化活動に取り組んでいく。

- ・この活動を通し住民が自分の地域に愛着と誇りを持ち、併せて、環境美化の取り組みが進めば通行する方々や運転手の気持ちが和むことにつながり、一石二鳥である。

活動の様子

道路縁石付近
等の除草



集合時の様子



花床の整備



チューリップ
等植栽



令和2年度

協働のまちづくり大賞 表彰式



問合せ先

大分市 市民部 市民協働推進課

電話：097-537-7251